

市長選挙に関わるこれまでの経過と今後の姿勢

平素はひとかたならぬご支援を賜り、心より感謝申し上げます。早いもので前回の市長選挙から4年が経過し、多くの方々に支えていただいたことや自分の未熟さを痛感したこと、今でも昨日のこのように思い出されます。あれから臥薪嘗胆の歳月を過ごし、再挑戦を念頭にして翌年には市議会議員に復帰し、コロナ禍における議会活動に奔走してまいりましたが、4月10日告示17日投開票の豊中市長選挙に出馬しないことを申し上げます。再挑戦を期待して、今日まで応援してくださった方々には深くお詫び申し上げます。

これまでの経過について下記のとおりご報告させていただきます。

2018年 議員失職

2019年 議員再選 再挑戦の姿勢で議会活動、年度末にはコロナ禍となりました。

2020年 緊急事態宣言下での議会活動となりました。

2021年 長年にわたる公約であった東西路線バスの開通

9月 議会において維新の会所属議員が現職市長に対し「リーダーと認めない」と表明

10月 前回次点である中川議員と市長選挙に関わって懇談
衆議院議員選挙において維新の会が圧勝

11月 中川議員が市長選挙に出るなら応援し、出ないのであれば私が出馬すると決意

12月 議会において維新の会所属議員が現職市長に対し、あらためて不信任を表明
三つ巴の選挙戦を避けるため、維新の会に対して候補者を出さないよう依頼

2022年

1月 維新の会から方針未定が伝えられる、今後の情報交換は続けることに
選挙準備とともに、折に触れて応援いただいている方からのご意見を拝聴する

2月 候補者未定のまま、市長選挙にかかる候補者説明会に出席

3月 維新の会の方針が未定のまま告示一か月前となり、事実上の出馬を断念
三つ巴選挙を避けるため、維新の会の候補者が決まれば応援する旨を伝える
月末に維新の会が記者会見で「候補者擁立の予定はない」と表明

4月 4日市議団からの回答、8日不出馬を表明

前回の市長選挙をふまえ、現職有利であることから、三つ巴の選挙なら出ないという前提であるため、出馬は自ら意思決定するものですが、他の要因を考慮せざるをえないのが現実でした。とりわけ衆議院選挙以降、現職陣営の方から「出馬してくれないと現職が維新に負ける」というような私にとっては落選のための出馬打診が複数ありました。また、維新の会の党勢や議会発言をふまえると、候補者擁立は疑う余地はありませんでしたが、候補者を擁立しない決定になることは驚きでしかありません。

私自身の考え方としては、現職市長の人柄や職務能力については認めるところです。しかしながら、長年申し上げていきますとおり、組織に担がれているだけの役人市長では、大きな政治判断はできないということです。豊中市は長い間、役人市長であり、国政では争う政党が一堂に会して結託し、組織選挙を展開してきました。こんな政治が続いている限り、豊中市は無難な都市であり続ける一方、都市間競争においては後塵を拝し、明るい未来はなく、政治家として将来への責任を果たせないと思っています。

その一心で落選から四年間の活動を継続してまいりましたが、コロナ禍で十分な活動ができなかったことだけでなく、人間関係が希薄となり、人と会うことが難しい中で、ご支援いただく皆様からは市長選挙出馬に対し、否定的なご意見が少なくなかったことも事実です。一番印象的だったのは、選挙においていつも汗水を流してくださる方が「落ちたら、また市議選でしょ。応援する方もしんどいね」という言葉でした。私も多くの選挙に携わり、一生懸命に応援した選挙で敗れた時の脱力感、徒労感を思い出しました。あらためて、私自身の気持ちだけで軽々に出馬してはいけないと肝に銘じました。

「なぜ出馬しないのか」「出馬したらいいのに」というご意見もいただきましたが、「出馬したくない」のではなく、私一人が「出馬したい」と一生懸命になったところで、やはり私一人では何の力にもなりません。皆様からの最大の応援は投票ですが、選挙をするためには、経済的にもマンパワーでも多くのご支援が必要不可欠です。そうした実情をご存じないまま投げかけられる言葉には、「落選のための出馬打診」をふまえ、強い不信感さえもっています。「松岡くんが決めるなら、応援するよ」という嬉しい言葉もいただき、三つ巴の選挙ではなくなったため、出馬して有権者の「信を問いたい」気持ちには変わりありませんが、無投票選挙になることは忸怩たる思いです。

今後の姿勢については、別にお示しする今回の市長選挙にあわせて改訂したマニフェストのとおり、是々非々の立場で議会活動をし、コロナ対応については現職市長を支持していきたいと思っております。現在の豊中市政については、現職市長が無投票で信任される恐れがあることから、過去、現在、未来に対して三つの責任を果たしていないことを以下にお示しさせていただきます。

まず過去に対する責任ですが、長年にわたる市立火葬場の随意契約について、市議会に対する説明は「特殊な設備のため、建設した業者でないとメンテナンスできない」ということでしたが、それは真実ではありませんでした。これについて、現職市長は担当課長、担当部長、担当副市長として長年にわたって所管してきたにもかかわらず、業者変更に何ら弁明もないことは不誠実であり、疑惑を残すだけとなっています。

現在に対する責任は、納税者に対する説明です。コロナ禍において豊中まつりは開催されなかったにもかかわらず、負担金 1500 万円は予算どおり執行され、事務局を受託している法人は累積赤字を解消しています。こうした状況が続いており、市政に対する無関心もあいまって大きな問題とはなっていません。納税者として、議席をあずかる身として、こうしたお金の使い方は断じて許せません。

未来に対する責任は、駅前再開発です。服部駅前に予定されているロータリーはバスの進入ができないほどの狭小なものとなります。また、庄内駅前には「都市計画マスタープラン」(策定期間 2018~2027 年)に駅前広場を整備することが記載されているにもかかわらず、パチンコ店跡地を購入することなく、駅前再開発の着手は大きく遠のきました。南部活性化を総合計画にリーディングプランとして位置付けているにもかかわらず、その肝とも言うべき駅前再開発が未着手のままとなります。不作為という機会損失による失敗は、将来に対する責任を果たしているとは言えません。

もっと政治が活きる町になれば、豊中は等比級数に良くなると信じてやみません。私が議員初当選した 2007 年から比べると、豊中は随分よくなりましたが、15 年もかけていては改革ではなく単なる変化です。一人の政治家として限界はありますが、政治が息づく町となるよう、これからも一生懸命に務めさせていただくことをお約束申し上げます

令和 4 年 4 月 7 日
豊中市議会議員 松岡信道